

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成 17 年 5 月 26 日 (2005.5.26)

【公開番号】特開 2004-238788 (P2004-238788A)

【公開日】平成 16 年 8 月 26 日 (2004.8.26)

【年通号数】公開・登録公報 2004-033

【出願番号】特願 2004-5282 (P2004-5282)

【国際特許分類第 7 版】

D 0 6 M 11/79

D 0 6 M 11/38

D 0 6 M 11/45

D 0 6 M 11/46

D 0 6 M 11/49

D 0 6 M 13/507

D 0 6 M 23/06

D 0 6 M 23/08

【F I】

D 0 6 M 11/79

D 0 6 M 11/38

D 0 6 M 11/45

D 0 6 M 11/46

D 0 6 M 11/49

D 0 6 M 13/507

D 0 6 M 23/06

D 0 6 M 23/08

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 10 月 7 日 (2004.10.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

粒子径が 10 μ m 以下である微粒子を繊維表面に付着させるものであって、前記微粒子が、酸化チタン、酸化亜鉛、酸化銅、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化鉄、酸化コバルト、酸化アルミニウム、酸化ケイ素及び酸化ジルコニウムからなる群から選ばれる少なくとも一種の無機化合物に炭素数が 1 ~ 8 のアルコキシ基、フェニル基又はフェノキシ基を導入した有機物誘導体から選ばれる少なくとも一種の化合物であることを特徴とする繊維製品の改質加工方法。

【請求項 2】

前記微粒子が、水性分散液、エアゾール組成物又はスプレー液として、繊維表面に付着される請求項 1 の方法。

【請求項 3】

粒子径が 10 μ m 以下である微粒子を有効成分として含有するものであり、前記微粒子が、酸化チタン、酸化亜鉛、酸化銅、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化鉄、酸化コバルト、酸化アルミニウム、酸化ケイ素及び酸化ジルコニウムからなる群から選ばれる少なくとも一種の無機化合物に炭素数が 1 ~ 8 のアルコキシ基、フェニル基又はフェノキシ

基を導入した有機物誘導体から選ばれる少なくとも１種の化合物であることを特徴とする繊維製品の改質加工剤。

【請求項４】

スキンケア剤、抗菌防臭剤及び消臭剤からなる群から選ばれる少なくとも１種が複合化されていることを特徴とする請求項３の改質加工剤。

【請求項５】

前記有機物誘導体が炭素数１～８のアルコキシ基の少なくとも一つを有するオルガノシリケートである請求項４の改質加工剤。

【請求項６】

前記微粒子の水性分散液からなる請求項３～５いずれか１項の改質加工剤。

【請求項７】

前記水性分散液と共に有機溶剤及び／又は噴射剤を含む請求項６の改質加工剤。

【請求項８】

前記微粒子の粒子径が５００ｎｍ以下である請求項３～７いずれか１項の改質加工剤。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００４】

本発明は、粒子径が１０μｍ以下である特定の微粒子を繊維表面に付着させることにより、前記課題を解決した。この微粒子は、酸化チタン、酸化亜鉛、酸化銅、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化鉄、酸化コバルト、酸化アルミニウム、酸化ケイ素及び酸化ジルコニウムからなる群から選ばれる少なくとも一種の無機化合物に炭素数が１～８のアルコキシ基、フェニル基又はフェノキシ基を導入した有機物誘導体から選ばれる少なくとも１種の化合物である。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

本発明の改質加工剤は、粒子径が１０μｍ以下である微粒子を有効成分として含有するものであり、前記微粒子が、酸化チタン、酸化亜鉛、酸化銅、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化鉄、酸化コバルト、酸化アルミニウム、酸化ケイ素及び酸化ジルコニウムからなる群から選ばれる少なくとも一種の無機化合物に炭素数が１～８のアルコキシ基、フェニル基又はフェノキシ基を導入した有機物誘導体から選ばれる少なくとも１種の化合物であるものである。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

前記有機物誘導体としては、例えばテトラメトキシチタン、テトラエトキシチタン、トリエトキシチタン、テトラプロキシチタン、テトラブトキシチタン、テトラヘプトキシチタン、テトラメトキシシラン、テトラエトキシシラン、テトラブトキシシラン、フェニルトリクロロシラン、ジフェニルジクロロシラン、フェニルトリメトキシシラン、フェニルトリエトキシシラン、アルミニウムエトキシドなどを挙げることができるが、勿論、これに限定されるものではない。好ましい有機誘導体は、変性オルガノシリケートであり、特に

好ましいのは、炭素数 1 ~ 8 のアルコキシ基の少なくとも一つを有するオルガノシリケートである。